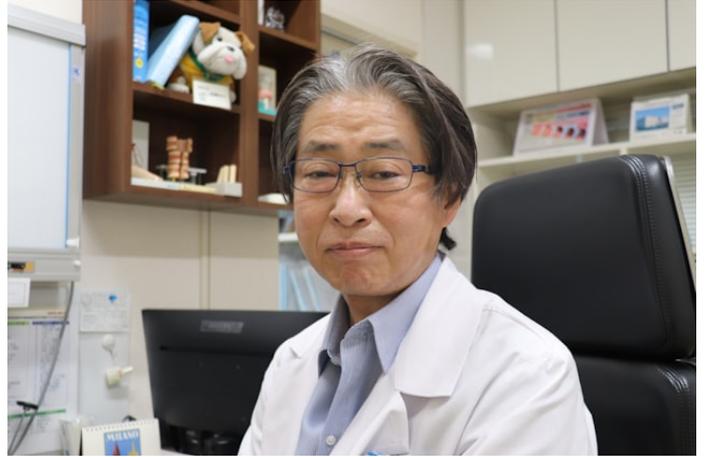


埼玉・所沢の伊藤医師、オーダーメイドで高血圧治療 地域密着心掛け－ひと彩たま

2025/06/04 02:00 日本経済新聞電子版 875文字

埼玉県所沢市の伊藤内科は、患者個人に合った高血圧などの生活習慣病の改善・治療を提案し、その予防にも貢献している。院長の伊藤哲さんは地域密着型の医療にこだわり、毎週の往診も欠かさず続ける。プロの家庭医として患者の声に耳を傾けながら体の不調を治し、住み慣れた地域や家で長く暮らしたい人の思いに寄り添う。



伊藤内科の伊藤哲院長は高血圧治療の専門的な知識を生かし、地域に寄り添う

「万病のもと」とも呼ばれる高血圧だが、発症する経緯やメカニズムは人それぞれ異なる。伊藤さんがこだわるのは、患者一人ひとりの食生活や睡眠時間、仕事の忙しさなどのライフスタイルを聞きながら、「オーダーメイド」の治療を提供することだ。「薬を処方するだけでなく、生活習慣の改善につながる診療を心がけている」と語る。

内科医だった父親の背中を追い、医師の道を志した。地元の埼玉医科大学を卒業し、日本大学医学部第二内科で医師としての第一歩を歩み始めた。

今でも思い出すのは、医師として駆け出しの25歳のころに担当していた高齢の女性入院患者だ。診察のたびに気さくに話しかけてくれていたが、病状悪化と共に口数は少なくなり、亡くなってしまった。大きな喪失感と共に「もっとできることがあったのではないか」という後悔が押し寄せ、涙を流した。

その後、米ピッツバーグ大学に留学し、高血圧の専門的な研究に従事した。伊藤さんは「研究で培った思考回路は、臨床を行う上でも役に立っている」と話す。帰国後は大学病院に戻り、2008年に伊藤内科の院長に就任した。以来、地域に根ざした医療を続けてきた。

伊藤さんの提供する医療は、地域の多くの人から信頼を集めている。90代の母親の通院に連れ添っている所沢市の女性は「穏やかな口調で病状を聞き取る姿に、先生の人柄がにじみ出ている」と話す。

高齢化が進むいま、健康寿命を延ばすことも課題となり、認知症や心身の機能が衰えるフレイル（虚弱）を予防するための指導にも尽力する。伊藤さんは「大病院が高度な治療を提供するのに対し、家庭医は患者のことを総合的に理解して最適な治療に橋渡しするという使命がある」と話す。これからも地域と共に歩み続ける考えだ。

(荒牧寛人)

許諾番号30104769 日本経済新聞社が記事利用を許諾しています。

本サービスで提供される記事、写真、図表、見出しその他の情報(以下「情報」)の著作権その他の知的財産権は、その情報提供者に帰属します。

本サービスで提供される情報の無断転載を禁止します。

本サービスは、方法の如何、有償無償を問わず、契約者以外の第三者に利用させることはできません。

Copyrights © 日本経済新聞社 Nikkei Inc. All Rights Reserved.